

平成 22 事業年度決算の概要について

山梨大学の平成 22 事業年度財務諸表などの決算関係資料が、文部科学大臣より承認されましたので、大学の財政状態や運営状況を広く知っていただくため、ここに公表いたします。

本学は「地域の中核、世界の人材」をキャッチ・フレーズに、地域社会の中核として、地域の要請に応えることができると同時に、世界を舞台に活躍できる、豊かな人間性と倫理性を備え、高い知的能力と深い専門性を持つ人材の育成に取り組んでいます。

平成 22 年度は、第 2 期中期目標期間の初年度であり、新たな中期目標の達成に向けて年度計画を着実に実施しております。

特に、教育研究組織の見直しに重点的に取り組み、社会のニーズを踏まえた教育人間科学部及び工学部の改組を検討するとともに、この改組による資源を活用して農学系の新学部設置に向けた準備を行い、大きく進展することができました。

また、他の国立大学法人と同様に、本学も運営費交付金の削減や総人件費改革への対応等、年々厳しい経営環境に置かれている中ではありますが、外部資金の獲得強化や管理的経費の抑制、附属病院の増収策を施すなど継続した取り組みにより、安定した財務状況を保つことができいております。

平成 22 事業年度財務諸表は別紙のとおりですが、これらは前年同様に貸借対照表、損益計算書など企業会計に準じた国立大学法人会計基準によって作成しています。その概要は、平成 23 年 3 月末の資産合計は約 632 億 6 千万円、負債合計は約 219 億円、純資産合計は約 413 億 6 千万円となっており、また、平成 22 年度経常収益合計は約 294 億円、経常費用合計は約 281 億 2 千万円、当期総利益は約 13 億 1 千万円となっています。しかし、この当期総利益の要因は、国から承継された機器の減価償却相当額が耐用年数の期間中は継続して利益となること、及び病院施設整備のための借入金償還額とその減価償却費の差が利益となることなど、会計ルールの変更や法人への移行に伴う特例的な会計処理によるもので、これらを除いた現金の裏付けのある実質的な剰余金は約 7 億 5 千万円です。この剰余金は、目的積立金として繰り越し、教育・研究・診療の質のさらなる向上や組織運営改善のために大切に使用していく予定です。

これら財務状況に関しては、様々な視点から検証し、財務報告書（22 事業年度フィナンシャルレポート）も作成し、公表いたします。

本学は今後も中期目標・中期計画の達成に向け、厳しい財政状況の中で、自己収入の確

保を図りながら、一層の経費節減や事業の見直し・効率化などを継続して進め、教育研究活動の一層の充実・発展に努めるとともに、その成果を活かした社会貢献を進めてまいります。

公表にあたり、ご支援いただいた関係各機関や地域の皆様に感謝申し上げますとともに、本学が、キャッチ・フレーズである「地域の中核、世界の人材」を実現するために、引き続きご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成 23 年 10 月 27 日

国立大学法人山梨大学 学長 前 田 秀一郎